

平成 23 年度 奈良県立高校入試の傾向と対策

新中学校学習指導要領を先行実施する向きもあり、来春に向けていよいよ勝負の後半戦。学習対策にお役立てください。

国語

回答は記述式が多く、文字数の多い自由記述問題もよく出題される。また、細かい条件が設定された作文も出題される。内容をしっかりと読み取り、示された条件に従って文を構成する力を養うことが大切だ。例年出題される書写については文字を正確に丁寧(ていねい)に書く練習が必要だ。

社会

二十二年度は平城遷都 1300 年祭を題材に、略地図から平城京のつくりを説明させる問題が出題された。知識に偏らず、地図や図表、資料などを読み取り簡潔に論述する問題がよく出題される。内容を深く理解し考え、表現する力を養うことが必要だ。

数学

二十二年度は、アルファベットを図案化したものを題材に、確率や対称についての出題が目立っていたが、関数と図形についての融合問題もよく出題される。全体として図形の比重が高い。証明問題は全文記述式であるから、証明の書き方をよく練習しておくこと。動点の問題や作図問題もしばしば出題されている。

理科

二十二年度は、移行措置内容から、月の動きと見え方についての出題があった。実験・観察に関する問題が多く、論述式の解答や作図、グラフの設問もある。クセの少ない典型的な問題が多いので、問題集などを利用して苦手を作らず幅広い基礎力の向上を図り確実な理解を深めておくことが必要だ。

英語

リスニング、対話文、長文の組み合わせによる大三題という構成が定着している。全体として長文読解問題の比重が高く、英作文は長文問題の中に組み込まれ、文の仕組みを限定したものの他長文の内容を理解した上で条件に合わせて自分で考えて書くものがよく出題されている。

進学塾 杉田ゼミ

進研ジャーナルより Vol25 No.2